

5-5. 食事介助のポイント

以上のことを理解した上で、具体的に介助のポイントを示します。
誤嚥させないようにするのではなく、誤嚥しない介助方法を覚えて下さい。

1. 姿勢の確認

- ① 意識は覚醒した状態ですか？
- ② 注意、集中できる環境ですか？
人が通ったり、音がうるさかったりして集中できない環境の時は、
静かに集中できる環境（個室）などに移動して介助を行う
- ③ 前傾姿勢になっていますか？
背もたれに背中を付けない
踵を床につける
うなづける（首が自由に回せる状態）
顎は上がっていませんか？やっではいけない介助
立った状態での介助、正面からの介助
－患者、利用者を上から見下げた状態で介助すると、上口唇で
スプーンから食べ物をぬぐいとるときに顎が上がってしまう
反側聞き手介助
－利き手側に患者、利用者を座らせて介助すると
スプーンを持った手首が回せず、肘ごと手首を上げることにな
るので顎が上がってしまいます
顎は引きすぎではありませんか？
ベッドをギャッチアップし、頭に枕を入れた状態での介助
－顎を引きすぎた状態になる

2. 口腔内の状態確認

- ① 乾燥していませんか？－湿潤状態ですか？
- ② 傷、出血（口内炎）はありませんか？
- ③ 食物残渣はありませんか？

3. 歯の確認

- ① 残歯がありますか？
- ② 部分義歯ですか？
- ③ 全義歯ですか？
- ④ 義歯は入っていますか？
- ⑤ 義歯をはめると痛みませんか？
- ⑥ 義歯は緩んでいませんか？
－すぐ外れませんか？
口の中で飴を舐めているように動きませんか？

4. 食形態の確認

① 普段どのような食事を食べていますか？

常食

柔らか食

ソフト食（絹膳）

ペースト

② その食形態は本人に合っていますか？

介助者の都合で咀嚼しなくても食べられる食形態にしていますか

確認が終わったら、
さあ、食事開始です